著作権保護コンテンツ

JRAC × この本読んで！

第2回 読みきかせの達人が選ぶ

親子で読んでほしい絵本大賞 発表

「親子で読んでほしい絵本大賞」がJPIC読書アドバイザー104人の投票により決定しました。大賞を含む入賞12作品と、それらに寄せられた推薦コメントを紹介します。また、今回新設した「この本 読んで！ 読者賞」には、124人の読者のみなさまが投票に参加してくださいました。「読者賞」に選ばれた3作品も発表します。

撮影／J.SAKURA （コメントを寄せていただいた方の敬称略、順不同）

★迫力のある絵で描かれた、厳しい大自然の中での動物たちの命の営み。そこには神々しいほどの美しさを感じます。現代人が忘れてしまった「命の重さ」が伝わってくる絵本です。
（25期　竹村安喜子）

★大自然のいのちのつながりが淡々と描かれた作品です。2頭のヘラジカの絡まった角が語る物語は、厳粛な感動を呼び起こします。その下に生まれた新しいいのちの誕生にほっこりと終わるのもすてきです。（22期　上田陽子）

★内容はもちろん、作品誕生にも、壮大な物語がありました。
（1期　クリちゃん）

★なかなか手にとりづらい装丁の絵本ですが、星野さんの写真に閉じ込められていた物語が鮮やかによみがえったような、素晴らしいコラボ絵本だと思います。（23期　矢野幸子）

★絵本をあまり読まなくなる小学校高学年になっても、この本を開いて自然や生物のことを考えてほしいと思いました。そして1枚の写真から生まれた世界について感じたこと、考えたことをぜひ親子で話し合ってほしいです。
（10期　江口陽子）

★北の大地で暮らすヘラジカは、ぶつかり合って闘ううちに角がはずれなくなりました。自然は過酷です。星野道夫さんの残した写真から、鈴木まもるさんが物語を紡ぎ、絵本にしてくれました。ありがとう！（3期　大森久美子）

★静謐（せいひつ）でありながら、力強い物語。闘う2頭のヘラジカ。アラスカに生きる動物たちの姿に心打たれます。水の流れにあらがい、大地に突き刺さるヘラジカの頭骨。星野さんが撮った裏表紙の写真には、ただ息をのみます。
（23期　原田早苗）

★衝撃を受けた本。自然界の厳しさ。命をかけた闘い。弱肉強食の世界。自然の摂理。死もたくさんの命を生かすことにつながります。子どもたちには衝撃が強いかもしれないけれど、生きることについて考えるきっかけになる本です。（20期　越智由美子）

★複雑に絡みあった骨から想像される命の物語。生きるための壮絶な闘いと、自然の中での生命のつながりに心が揺さぶられます。読後に見る裏表紙のヘラジカの角の写真が印象的です。改めて生命のドラマを強く語りかけてきます。（22期　ここあ）

★大自然でのドラマと生命のつながりを伝えてくれる絵本。コロナ禍の今こそチマチマしたことは置いておいて、星野さんのほかの写真絵本も一緒に親子で読んでほしいです。（16期　森 和子）

★3月16日に、作者の鈴木まもるさんをお招きして、表彰式を行います。式の様子は、次号誌面にてお伝えいたします。お楽しみに！

親子で読んでほしい絵本大賞とは

親子でもっと絵本を楽しんでほしい！　いい絵本を親子に届けたい！
との思いを込めて、JPIC読書アドバイザークラブ（JRAC）により創設されました。

選出方法：JRAC会員40名からなる選考委員が、「この本 読んで！」2020年春号～冬号の4号で紹介された新刊絵本400冊の中から大賞候補作12作品を選出。それを、JRAC会員有志が読み、12作品の中から1～3位を選んで投票しました。

※ JPIC読書アドバイザークラブについての詳しい説明は、P59下部に記載しています。

著作権保護コンテンツ

懐かしい 日本の 名作絵本

日本の原風景や、生活に根づいた風習などが見られる〝懐かしい絵本〟を描いたふたりの絵本作家を特集します。圧倒する筆致と技法で描いた画家の、当時を知る方々に制作秘話を伺いました。教科書に載っている、懐かしい絵本もご紹介します。

『八郎』より

滝平二郎（1921～2009）

P22から

『スーホの白い馬』より

赤羽末吉（1910～1990）

P16から

赤羽末吉 略年譜

- **1910年** 東京に生まれる。
- **28年** 日本画家に1年ほど入門。
- **32年** 旧満洲（現・中国東北部）の大連に渡り、運送会社に就職。
- **36年** 満洲電信電話株式会社に入社。新京（現・長春）へ転居。
- **40年** 旧満洲の美術グループ「黄土坡美術協会」に参加。
- **44年** 絵本『満洲月暦』『五彩満洲』（ともに共著）刊行。
- **47年** 帰国。
- **48年** GHQ民間情報教育局に就職。
- **52年** GHQ廃止に伴い、アメリカ大使館文化交換局展示課に勤務。
- **54年** この年から10年ほど、東北、上信越の豪雪地帯へスケッチ旅行に出かける。
- **57年** 茂田井武・絵の『セロひきのゴーシュ』に感動。絵本を描こうと決心する。
- **61年** 『かさじぞう』『スーホのしろいうま』（ともに「こどものとも」）刊行。
- **65年** 『白いりゅう黒いりゅう』『ももたろう』でサンケイ児童出版文化賞受賞。
- **68年** 『スーホの白い馬』でサンケイ児童出版文化賞受賞。
- **69年** アメリカ大使館退職。
- **73年** 『源平絵巻物語　衣川のやかた』で講談社出版文化賞絵本賞受賞。
- **80年** 国際アンデルセン賞画家賞受賞。
- **82年** 『わらべうた』『そら、にげろ』でライプチヒ国際図書デザイン展金賞受賞。
- **90年** 逝去。享年80歳。

滝平二郎 略年譜

- **1921年** 茨城県に生まれる。
- **38年** 県立石岡農学校を卒業。漫画研究同人展を開く。
- **41年** 徴兵。
- **45年** 沖縄に上陸した米軍の攻撃を逃れ、沖縄本島の山中を彷徨。
- **46年** 復員。小学校代用教員となり、その後、木版画を制作。装丁や挿画の仕事なども行う。
- **63年** 日教組が発行する「父母と教師を結ぶ新聞」で、斎藤隆介の記事に版画を連載開始。
- **64年** いわさきちひろらと、童画グループ「車」を結成。
- **67年** 初の絵本『八郎』刊行。作者の斎藤隆介とは、以後多くの絵本でコンビを組む。
- **68年** 国際版画ビエンナーレ展に招待出品。
- **70年** 『花さき山』で、講談社出版文化賞ブックデザイン部門受賞。この年から78年にかけて、「朝日新聞」の日曜版に独自の手法による「きりえ」を連載。
- **71年** 『モチモチの木』刊行。
- **74年** モービル（現・ENEOS）児童文化賞受賞。
- **77年** 『モチモチの木』が小学校の国語の教科書で採用される。以後、現在まで継続。
- **87年** 『ゾメコとオニ』で、絵本にっぽん賞受賞。
- **2009年** 逝去。享年88歳。

著作権保護コンテンツ

プチ特集

ふくとくん（5歳）

母の日・父の日 家族の絵本

しおりちゃん（3歳）

ゆりちゃん（5歳）

5月には母の日が、6月には父の日があります。
お母さんやお父さんを描いた絵本はたくさんありますが、
その中でも比較的新しいものを集めてみました。
子どもから見た家族や、
新しいカタチの家族を描いた作品もご紹介します。

なみちゃん（3歳）

お母さん

『おかあさん どこいったの？』
文・絵／レベッカ・コッブ
訳／おーなり由子
1,300円（ポプラ社）
母親が亡くなったことを理解できない幼子。いつも着ていたセーターやバッグなど、母親のものがそのままあるというのに。それでも、遺された家族は大切な思い出と一緒に、今日を生きていきます。

ふくこちゃん（4歳）

『だいすきのしるし』
作／あらいえつこ
絵／おかだちあき
品切れ中（岩崎書店）
今日はれなの幼稚園で発表会。ところが朝、弟が熱を出してお母さんは病院に連れていかなくてはなりません。誰よりも見てほしいのはお母さんなのに……、れなは気丈に振る舞いますが、不安と悲しみでいっぱいです。

『そらは あおくて』
文／シャーロット・ゾロトウ
訳／なかがわちひろ　絵／杉浦さやか
1,300円（あすなろ書房）
女の子が古いアルバムを見ながら、お母さんに昔の話を聞きました。写真の中の女の子は、お母さん、それから、おばあちゃん、ひいおばあちゃんも。写っているものは今とはなんだか違いますが、変わらないこともあるのです。

『しげるのかあちゃん』
作／城／内まつ子　絵／大畑いくの　1,300円（岩崎書店）
うちの母ちゃんは茶髪につけまつ毛、ギャルのような姿。2トントラックの運転手です。あらゆる工具を使いこなし、修理修繕はお手のもの。ガテン系の母ちゃんは、最高にカッコいいのです。

『かあさん、だいすき』
文／シャーロット・ゾロトウ
絵／シャーロット・ヴォーク
訳／松井るり子　1,700円（徳間書店）
秋の日、エレンはお母さんと枯れ葉をザクザク踏みしめて歩いています。「お母さん、今、何考えてる？」という問いかけに、エレンがほしい答えは……。お母さん大好きという気持ちが伝わってきます。

『てつだってあげるね ママ！』
作／ジェーン・ゴドウィン、ダヴィーナ・ベル
絵／フレヤ・ブラックウッド　訳／小八重祥子
1,600円（きじとら出版）
今夜はパパの誕生日パーティーで、ママは朝から準備に大忙し。お疲れのママにかわって手伝おうとするお姉ちゃんですが、かえって散らかして、ママの手をわずらわすことに。

『ママ』
作／カン・ギョンス
1,400円（永岡書店）
赤ちゃんがはじめて発する「マンマ」の言葉。うれしいときも、悲しいときも、困ったときも、「ママ～」と頼られるうれしさ。子どもの成長と老いていく親と、受け継がれていく命と愛情に感動します。

『ママはかいぞく』
作／カリーヌ・シュリュグ
絵／レミ・サイヤール
訳／やまもとともこ
1,500円（光文社）
がんを患った母親の闘病を、船に乗って宝の島をめざす海賊の冒険に見立ててはなしが進みます。小さな息子にもわかるよう、がんとの闘いを説明しています。何カ月にもおよぶ母親不在の家で、息子は父親と母親の帰りを待っています。

『ママは
スーパーちからもち』
作・絵／ニコラ・ケント
訳／こばやしれいこ
1,300円（岩崎書店）
お財布や家の鍵やハンカチはもちろん、おやつに替えの靴下にばんそうこうまで。何でも入っているお母さんのバッグ。その上、子どもを抱きかかえてスーパーの買い物まで。お母さんは力持ちです。

もう読んだ？

新刊100!!

2020年9～11月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。

※出版社五十音順

マークは乳幼児から、は中・高校生も楽しめる本です。

定期購読者限定プレゼント

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

『島の子げんたの春休み』

文／荒尾美知子
絵／福田岩緒
1,800円（あすなろ書房）

げんたは瀬戸内海の鹿島に住む男の子です。春休みに町に住むいとこのゆかが遊びにやってきました。体の弱いゆかは、不自由な島の生活にとまどいますが、豊かな自然にふれてだんだん変わってきました。

『雨の日の地下トンネル』

作／鎌田 歩
1,400円（アリス館）

大雨や長雨が降ったとき、水害が起こることがあります。実は水害から町を守るために、深い地下に巨大なトンネルがつくられているのです。立坑（たてこう）、調圧水槽を通り、大量の水が排水口から大きな川に流されます。

『パンダのパンだ』

作／牛窪良太
1,400円（アリス館）

パパパンダ、ママパンダ、そして子パンダたちが働くパン屋さんには、毎日焼き立ての日替わりパンが並びます。しましまパンや、あま～いパンの日もあります。パーティーの日に登場する秘密のパンは、さて、どんなパン？

『おふろ、はいる？』

作／飯野和好
1,400円（あかね書房）

さあ、お風呂に入りましょう！　お父さんは町の銭湯、お母さんは露天風呂、おじいちゃんはドラム缶風呂がお気に入り。昔は釜の底に板を敷く五右衛門風呂もありました。いい香りのするゆず湯も最高です。

『ふぶきのみちはふしぎのみち』

作／種村有希子
1,400円（アリス館）

「いち・に・いもむし」「いち・に・ねずみ」と声をかけ、みちるは学校に急ぎます。そのとき吹雪の中に大きなシロクマ、アザラシ、クジラ、ペンギンまで現れ、心細くなってしまいました。「お姉ちゃーん」と叫ぶと……。

『くらやみきんしの国』

作／エミリー・ハワース＝ブース
訳／おおつかのりこ
1,600円（あかね書房）

王子さまは暗闇が苦手で、王さまになったら暗闇を禁止にしようと考えていました。いよいよそのときが来て、暗闇は悪いものだと伝え、人工太陽までつけることになりました。不安になった人々はどうするのでしょう？

『わかってるって』

作／しもかわらゆみ
1,500円（イマジネイション・プラス）

ぼくが赤ちゃんと遊んでいると、お母さんは「やさしいねえ。助かるわ」と、言ってくれます。でも、ときどき聞きたくなります。「ぼくと赤ちゃんと、どっちが好き？」。悩んでいるのは、ぼくだけじゃなかったのです。

『バスザウルス』

作／五十嵐大介
1,600円（亜紀書房）

森の中に捨てられ、忘れられたオンボロのバス。ある晩、とうとうバスに手がはえ、足がはえ、しっぽがはえて、バスザウルスになりました。歩き疲れて停留所で休んでいると、おばあさんが乗ってきました。

※JPIC直販の定期購読の方に、抽選で新刊絵本100冊から1冊をプレゼントします。巻末のアンケートハガキまたはホームページのアンケートフォームから応募してください。

『きづいてパンダさん』

作／カンタン・グレバン
訳／あんのうれいな
1,500円（潮出版社）

旅するパンダさんは、ある日、気づくと誰かにお昼を食べられていました。白い羽と足あとが残されていますが、姿は見えません。ニワトリかと思ってしかけた作戦は、うまくいくでしょうか。

『にじいろのせかい』

作／刀根里衣
1,500円（NHK出版）

「かなしいことがたくさんおきて、せかいがまっくらになってしまいました」。絵描きの少年が、世界に光を灯していきます。そうしたら、クジラの背中に乗って旅にだって行ける。パステルカラーに心が癒されます。

『福助はみた』

文／おおなり修司
絵／きむらよしお
1,300円（絵本館）

福助は、幸福を招くという人形です。春、福助のひとりぼっちの旅が始まりました。道中、福助が出合うのは、はじめて見るものばかりです。そして行き着く先にはどんな運命が待ち受けているのでしょうか。

『アルフィー（ゆくえふめいになった カメ）』

作／ティラ・ヒーダー
訳／石津ちひろ
1,500円（絵本塾出版）

6歳の誕生日に出会ったカメのアルフィーを喜ばせたいニアですが、無反応な様子に興味をなくしてしまいます。7歳の誕生日が近づいたある日、アルフィーが行方不明になってしまいました。

『がろあむし』

作／舘野 鴻
2,000円（偕成社）

ガロアムシは、暗黒多湿の環境にしか住めない生きもののひとつです。取材と地下の環境を再現した装置で観察したガロアムシの生態を、克明な細密画で伝えます。人が暮らす町と地下の生物世界は、地面でつながっているのです。

『ぼくのカメはどこ？』

文／バーバラ・ボットナー
絵／ブルーク・ボイントン・ヒューズ
訳／川野太郎
1,400円（岩崎書店）

散らかしやのアーチャーは、すぐにものを失くします。アーチャーの大切な友だち、カメのケビンがいなくなっちゃった！　どうすればカメは見つかるでしょう？　ページをめくって、カメを探してみてください。

『ぼくはいしころ』

作／坂本千明
1,500円（岩崎書店）

ひとりで生き、「誰にも気にされない石ころと同じ」だと思っていた黒ネコのぼくに、声をかけてくる人が現れます。ぼくの存在が受け入れられたとき、しまいこんでいた思いが一気に声となってあふれだしました。

『スマイルショップ』

作／きたむらさとし
1,500円（岩波書店）

ためていたお小遣いを握りしめ、はじめての買い物に行った町は、人もお店屋さんもいっぱい。ぼくはワクワクしていたのに、人にぶつかられて、大事なお小遣いを落としちゃった！　残ったのは、1枚。これじゃ、何も買えないよ……。

『ぼくがふえをふいたら』

作／阿部海太
1,700円（岩波書店）

ぼくが笛を吹いたら、それは、まるで風の音。眠る誰かを呼び起こします。やってきたサルが丸太をたたき、ガゼルは弦を弾き、クマが木の実をつけて踊り、イヌの遠吠えとみんなの笑い声。音は重なり、広がっていきました。

『おやすみなさい どうぶつたち』

作／ケイト・ブレンダーガスト
訳／よしはらなお
1,500円（潮出版社）

イヌとネコはまるくなって眠ります。キリンは立ったまま、ナマケモノは逆さまになったまま眠ります。いろいろな動物が、どんなふうに眠るのかがわかります。巻末に、動物の詳しいおはなしも載っています。

プログラム（各10～15分）小学校高学年

4月 テーマ：ピンクがいっぱい！

❶『さくら』
文／長谷川摂子
絵・構成／矢間芳子
900円（福音館書店）

花が散り、翌年桜が咲くまでの１年間。最後に満開の桜が……。

❷『さくらがさくと』
作／とうごうなりさ
1,400円（福音館書店）

満開に咲いた桜もきれいだけど、風に吹かれてピンク色に染まった地面もいいですね。

❸『おさびし山のさくらの木』
文／宮内婦貴子
絵／いせひでこ
1,600円（BL出版）

「さくら」と題名が入ってるのに、ピンク色がない？　でも、見返しの絵が心に染み入ります。

5月 テーマ：“自然”っていいね

❶ 大型絵本『みんなでたのしむ もりのえほん』
作／安野光雅
3,500円（福音館書店）

文字はありません。ゆっくりとページをめくりましょう。絵の中に隠れている動物、見つけられるかな？

❷『ちいさいおうち』
文・絵／ばーじにあ・りー・ばーとん
訳／いしいももこ
1,700円（岩波書店）

まず、見返しの絵を見せます。小さいおうちのまわりの変化に気づく子もいるでしょう。

6月 テーマ：カエル

❶『ひょうたん と かえる』
作／西條八十　絵／殿内真帆
1,200円（鈴木出版）

まるで言葉遊びのような、リズム感のある本でスタートします。

❷『ケロリンピック』
文／大原悦子　絵／古川裕子
900円（福音館書店）

カエルだってオリンピックをするんですよ。「ケロリンピック」っていうんだけど。

❸『ヒキガエルがいく』
作／バク ジョンチェ
訳／申 明浩、広松由希子
1,800円（岩波書店）

最後は、上記２冊のようなかわいいカエルではなくて、なんともダイナミックでリアルな絵を楽しみましょう。

（北原由美子）

プログラム（各10～15分）小学校中学年

4月 テーマ：新学期はワクワクドキドキ！

❶『あ』
文／たにかわしゅんたろう
絵／ひろせげん
1,200円（アリス館）

ひとりで寂しい「あ」のところに、「お」が現れて「あお」になる。次はどんな言葉に変わるかな？　ページの始まりが左右両方あるので確認をしておきましょう。

❷『このほん よんでくれ！』
文／ベネディクト・カルボネリ
絵／ミカエル・ドゥリュリュー
訳／ほむらひろし
1,600円（クレヨンハウス）

人間の忘れ物の絵本が読みたいのに読めないオオカミと読んであげたウサギ、結末は……。そこまで読みたかった本は何の本でしょう？一緒に考えてみるのもおもしろいと思います。

5月 テーマ：生きものの不思議を知ろう

❶『みたら みられた』
作／たけがみたえ
1,500円（アリス館）

ふと、生きものと目が合う瞬間がありませんか？　「みたら」とじっくり絵を見せて、「みられた」とページをパッとめくると楽しめます。

❷『ライフタイム いきものたちの一生と数字』
文／ローラ・M・シェーファー
絵／クリストファー・サイラス・ニール
訳／福岡伸一
1,500円（ポプラ社）

生きものの一生をいろいろな数字で教えてくれる絵本です。聞いている人がわかりやすいよう、絵の中の数を指さし数えて読むといいですよ。

6月 テーマ：みんなの大切な地球のために

❶『もったいないばあさん かわをゆく』
作／真珠まりこ
1,500円（講談社）

もったいないばあさんが、川にゴミを捨てようとする男の子に自然の大切さを伝えます。

❷『みずとは なんじゃ？』
作／かこさとし
絵／鈴木まもる
1,500円（小峰書店）

いつもそばにある水。この水はいろいろな働きを持っていて地球のために必要です。かこさんの最後の言葉をじっくりと読んでください。SDGs（持続可能な開発目標）を一緒に説明して、環境を守ることを考えてみましょう。

（畠山英理子）

プログラム（各10～15分）小学校低学年

4月 テーマ：学校を思いっきり楽しんで！

❶『まどさんからの手紙 こどもたちへ』
文／まど・みちお
絵／ささめやゆき
1,000円（講談社）

「ぞうさん」の詩人が84歳のときに、母校の小学生たちへ送った手紙です。新年度を迎えた子どもたちにエールを。

❷『デイビッドがっこうへいく』
作／デイビッド・シャノン
訳／小川仁央
1,300円（評論社）

デイビッドは、遅刻、よそ見、ケンカをしては叱られてばかり。でも、最後は先生にほめてもらいます。やんちゃな子どもも、ほめられたいのです。

5月 テーマ：どうぞ、どうぞ

❶『きつねのホイティ』
作／シビル・ウェッタシンハ
訳／まつおかきょうこ
1,300円（福音館書店）

腹ぺこのキツネは、旅人になりすまし村人の家へ。だまされたふりをして、気前よく食事をふるまう人たちをユーモラスに描きます。

❷『ガンピーさんのふなあそび』
作／ジョン・バーニンガム
訳／みつよしなつや
1,400円（ほるぷ出版）

小舟で出かけたガンピーさんのところに、動物が次々とやってきます。ガンピーさんは「いいとも」と言い、みんなを舟に乗せてあげますが……。

6月 テーマ：目的地にたどりつけるかな？

❶『赤ずきん』
絵／バーナディット・ワッツ
訳／生野幸吉
1,700円（岩波書店）

オオカミがおなかに石を詰められ死んでしまう結末で、グリムの原作に忠実な翻訳になっています。

❷『よかったね ネッドくん』
作・絵／シャーリップ
絵／やぎたよしこ
1,400円（偕成社）

ちょっと怖い昔ばなしのあとは、小気味のいいおはなしを。パーティー会場へ向かうネッドくんの道のりはトラブルつづき。ページをめくるたびに、ピンチとラッキーが交互に展開します。

（道岡彰子）

対象別おはなし会のプログラムです。ここで紹介する絵本や紙芝居は、ご家庭での読みきかせにもおすすめです。ブックガイドとしてもご活用ください。

行事絵本・季節の絵本

新緑・みどりの日

『森の いのち』
文・写真／小寺卓矢
1,400円（アリス館）

森に朝もやが立ち込めて、夜が明けてきます。耳を澄ますと聞こえてくる命の息づかい。森の中のいくつもの小さな命が、森という大きな命をつないでいきます。

春・食べもの

『語りかけ絵本 えだまめ』
文・絵／こがようこ
1,000円（大日本図書）

みずみずしい緑の枝豆があります。ピュッと出してみましょう。飛び出たお豆は、パクッと食べちゃいます。ピュッとパクッを繰り返し、最後のひとつになりました。

紙芝居

『ぶーぶーぶー』
脚本／すとうあさえ　絵／相野谷由起
1,400円（童心社）

にこにこもりに引っ越してきたばかりのウサギさんは、お友だちがほしいなぁと思っています。鳴き声を使って歌遊びもできる、参加型です。

紙芝居

『ちまき まきまき』
脚本・絵／土田義晴
1,900円（童心社）

端午の節句にちまきを食べるのはなぜか、どうやって作るか、知っていますか。クマのクンクンとウサギのキキが、おばあちゃんと一緒に作ります。

紙芝居

『ジャックとまめのき』
原作／イギリス民話
脚本／堀尾青史　絵／かみやしん
1,900円（童心社）

大切なウシを、たった１粒の豆と取り換えたジャックは、お母さんに大層怒られてしまいました。でも、この豆、とんでもない豆だったのです。

（安冨ゆかり）

※当財団（JPIC）では読書を通して国民の生涯学習推進・読書活動の推進のために、1993年より「JPIC 読書アドバイザー養成講座」を開設。読書や出版について体系的に学習する講座です。
JPIC 読書アドバイザークラブ（JRAC）とはこの講座の修了生の有志により自主活動しているクラブ。全国に約660名が在籍、地域のおはなし会などで活躍しています。